



あきらめない心から
広がる世界。

「継続は力なり」を心に、
世界で活躍するチェアマン。

「とんでもない学校に来てしまったな...」。これが入学式の日、駐車場に憧れの車や高級車がズラリと並ぶ光景を目にした追大の第一印象だったという井谷さん。そこから始まったキャンパスライフは「とにかく楽しかった」と言います。将軍山祭では実行委員として盛りあげたり、漕艇部では4年間金力投球したり、日々の厳しいトレーニングにも耐えて実力をつけ、瀬田川のレガッタで2位に入賞するなどの実績も残しました。

このメダル獲得をととても喜んでくれたという井谷さんのお父さまは、業務用の音響機器と映像機器の専門メーカーTOA株式会社(旧社名 東亜特殊電機株式会社)の創業メンバー。井谷さんは大学卒業後お父さまから声をかけられ、このTOAへ入社しました。

「文系だったので電気や設備のことが分からないから、入社後はとにかく勉強でした」。技術職の人からマンツーマンで理論を学び、初めての配属先では、倉庫で器材の出荷を手伝いながら商品知識を学ぶ日々。初の営業担当地域ではエリアの隅々まで自分の足で廻り、土地勘を養っていきました。「地区の有線放送や防災行政無線など、拡声放送機器の仕事をしていたので、国道沿いに公共施設を見つると、何か仕事の種があるかもしれないと全部訪ねました。エリアマーケティングですね。こういう勉強や地道な動きをしたからこそ分かったこと、今にも活かしていることがたくさんあります」

中でも一番印象に残っている仕事というのが、警視庁の一大プロジェクト。東京へ異動後、中央官庁の担当をしていた井谷さんは「毎日警視庁へ営業に通ったんです。そのおかげで2年くらい経ったある日、「警視庁のバトカー車両を大幅に入れ替えるから、搭載するスピーカー類一式の提案をしてほしい」と言われて」。それからアイデアを練って提案し、競合相手を抑えて見事この案件を獲得。努力を重ねて大きな仕事を勝ち取った瞬間のことを「本当に嬉しくて、思わず拳をあげて「やったー!」と飛び上がりました」と回想。

「この警視庁の仕事ができたのも、間違いなく追大の漕艇部で養った根性があったからこそ。自分で考えて始めたことは最後まであきらめない、責任を持ってやりとげるという学生時代に培ったマインドが役に立ちました」

今や世界130カ国以上の国や地域で商品を製造・販売し、グローバル企業として活躍するTOA。企業のトップとしてアشرることなく進む方向を明確に示し、社員が働くよりよい環境づくりにも注力する井谷さん。国内外から注目を集めているTOAとともに、井谷さんの熱い思いとあきらめない気持ちは、今後さらに社会へたくさんの笑いを響かせていくことでしょう。

井谷 憲次 さん
Kenji Itani

1975年卒業(6期生)
経済学部 経済学科
TOA株式会社 取締役会長
<http://www.toa.co.jp>



追大での日々は、今のあなたの活躍に生きるものがありましたか？



多方面で、自分の力を発揮し活躍をしているたくさんの追大卒業生がいます。4年間の大学生活で楽しかったことはもちろん、辛かったこと、がんばったこと、乗り越えたことなど、自身の成長や今後につながるできごとたくさんあったことでしょう。そんなエピソード交えながら、今を輝く卒業生の代表として、5人の方に活躍の様子をうかがいました。



コミュニケーション力を発揮して 想いを建物でカタチにする建築士。

大学では学び方も生活もそれまでとは大きく変わるため、自分自身も変化する人がたくさんいます。田中さんもその1人。「大学に入るまではおとなしい方でしたが、追大の自由な校風の中でいろいろな人と関わるうちに、自分を出してもいいんだと思うようになり自然に変わりました」。ターニングポイントとなったという追大で地理歴史研究会の部長をしたり、文化会本部の学術局長をしたり。リーダーとして積極的に周りの人と関わることで、自分が成長できたと言います。

田中さんは両親が神戸で経営するアパレルデザイナー兼ブティック会社を継ぐため、経営学部に入學。しかし、阪神・淡路大震災が起る状況は一変。被災地・神戸でブティックは必要なくなってしまいました。卒業時「この先何をしようか迷っていた時、ある建築士さんに会ったんです。その方から話を聞いてるうちに、洋服ではないけど建物でデザインの仕事を受け継ぐことができるし、商品在庫も設備投資もなく、これなら自分でも商売ができるかも、会社は継ぐ事は出来なくても会社の思いは継ぐ事ができる、建築の道へ進んでみよう!」と思って。そこから方向転換をして建築の専門学校へ進学。設計事務所での勤務を経て、難関の一級建築士の資格も取得し、2010年に独立しました。

建築設計業界では理系出身者が多いものの、田中さんは文系。「建築を始めたのが遅く技術面で少し遅れをとっていたのですが、先輩の背中を見て仕事を覚えるというスタイルの事務所だったので、細

田中 克茂 さん
 Katsushige Tanaka
 1999年卒業 (30期生)
 経営学部 経営学科
 一級建築士
 一級建築士事務所 株式会社アンビエンテ 所長
<http://www.ambiente-ado.jp>



田中 克茂



人と人をつなげて、幸せな 社会づくりを目指すコーディネーター。

物姿がトレードマークだった学生という、覚えのある人もいるのでは?それが、この山下さん。同時期にキャンパスライフを送っていたほとんどの人に、顔が知られていたそうです。「いつも着物姿の知人の考えを聞いて、日本人として僕も一度着てみようとしたら、いつの間にかこれが当たり前になっていくのが重要ポイント。そこではお客様との上手なコミュニケーションを図ることが大切になってきますが、追大で部長や局長をしたことで身につけていたようで、相手の個性を見極め話をしたり関係づくりをするなど社会で大切なことこのベースが、追大で養われていました。技術は時間をかけ経験することで必ず伸びてきますし」

こうして建築士として活躍する田中さんは、保育園や学校、個人の住宅など、さまざまな設計を手がけています。規制がたくさんある京都の立地条件もクリアしながら、いかにお客様の想いをくみ取りカタチにできるか、プロセス的な立場もとりながら、数々の建物を設計してきました。

そんな田中さんは、昨年から校友会の常任理事に就任。「理系の仕事なので、追大の空気感が私の仕事に生きてきています。初心を忘れず、この文系の感覚を養うためにも校友会でのつながりはとても大切にしたいと思っています。先輩方から様々なアドバイスをいただけて、学生とお話する機会も多いので、ぜひ校友会のつながりを広げていきたいですね」

そう語る田中さんは、多くの人を幸せにする建物だけだけでなく、楽しい会話と時間を作る笑顔の建築士なのかもしれません。

山下 貴弘 さん
 Takahiro Yamashita
 2013年卒業 (43期生)
 心理学部 心理学科
 山口大学 地域未来創生センター
 COC+学生キャリア教育コーディネーター
 山口大学 教育学研究科・学校教育専攻 修士課程2年
http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus/_6620.html



山下 貴弘 (takahiro yamashita)



あきらめない心でメダルを獲得した レスリングのチャンピオン。

「私も金メダルがほしい!」息子が勝ち取ってきた金メダルを見てそう思ったという、長尾さん。思っても、それを実現できる人はなかなかいません。「当時50歳だった私が金メダルを獲れるならこれしかないと思いついて、自分も挑戦しよう」というのが、マスターズのレスリングでした。

大学時代から始めたバスケットを社会人になってからも続け、出産後に再びやりたいと思ったとき見つけた市民教室。「私がバスケットをしている間に何か子どもにもさせてあげられたらと思って本人に選ばせたら、レスリングと言ったので始めさせました。これが、長尾さんレスリングの出発点でした。何も知らずに入ったそのレスリングの教室は、実は全国でも強豪のチーム。初心者で幼かった息子さんは、思うように練習が進みませんでした。そこで、子どもに体操を教えるコーチをしていた長尾さんは、息子さんの練習の相手をしつつ、それをみた監督から「他の子の相手もしてやってほしいと言われて、との要望があり、子どもたちの練習につきあうようになりました。」

こうやって息子さんを支えながら、レスリングと関わってきた長尾さん。その息子さんは国内外の試合で活躍し、金メダルを持って帰ってくるほどになりました。そこで冒険の金メダルがほしい思いから、レスリングマスターズ大会で女子の部が始まったことを知り、参加を決意。初出場した第9回全日本マスターズレスリング選手権大会



長尾 由香里 さん
 Yukari Nagao
 1982年卒業 (13期生)
 文学部 心理学科
 cafe MAT MAN オーナー
 コナミススポーツクラブ 体育スクールコーチ

長尾 由香里 (yukari nagao)



愛と情熱を子どもたちに 教え続ける、エドゥケーター。

「この写真、見てくださいよ。きれいでしょ?」そう言って西本さんが見せてくれた写真は、ズラリときれいに自転車並んでいる写真。「学校で『美しい自転車置き場プロジェクト』をしてみたんです。生徒に、駐輪場の自転車は前輪を『壁ドン』、ちょっと詰めたらみんなの自転車が入りやすくなる『思いやり』、この2つでキレイになるんだと伝えて。帰る時、自転車置き場の合い言葉は『前輪を壁ドン!』とみんなで言って次の日駐輪場へ行ってみたら、見事にキレイに並んでいて感動しました。そう明るく楽しく話す西本さんは、中学校の英語教師。物心ついたころから教師にならなかつたそうで、高校の先生の薦めで英語の教師を目指しました。

追大での思い出を聞いてみると「3年生の時に語学研修でアメリカに行ったのは強く印象に残っていますね。初の英語圏で会話を楽しんだり、いろんなところへ行ったり、友人との絆が深まったり、貴重な経験をしてとても濃い1か月を過ごしました」とのこと。この時、名和先生の英語音声学で上達していた発音を試すこともでき、現在生徒たちに発音を教える時にも役立っていると言います。

そんな西本さんは、知り合いの勧めでBBS (Big Brothers and Sisters Movement) 活動に参加しました。これは問題を抱える少年少女



西本 敬太 さん
 Keita Nishimoto
 1990年卒業 (21期生)
 文学部 英米語学文学科
 滋賀県草津市立新堂中学校 生徒指導主事

西本 敬太

たちの兄や姉のような存在として一緒に悩み、喜び、楽しむボランティアで、「教師を目指す自分には必要なことだ」とキャンパスライフとともに注力してきました。「琵琶湖に泳ぎに連れて行ったり、相談に乗ったり、その子たちとの交流が今でも続いていて結婚式に行くこともありますし、恩人と言ってくれる子もいるほどです」

中学の教師として、また近畿地区会長まで務めたBBSで、教員採用試験の面接で応えたとおり子ども達に「Love & passion (愛と情熱)」を30年間教え続けている西本さん。ところが今後はそれを教える方法が教師ではないかもしれないと言います。「定年まで教師を務めるのではなく、小学生の頃から続けている剣道の道のお返しもしていきたくて」。剣道教士七段の西本さんは、礼儀作法や精神面で鍛えられる剣道を、幼稚園や保育園なども含めた多くの子ども達へもっと広めたいと考えているそうです。「卒論で研究したジョン・ロックの教育論では、ジェントルマンの育成の傍ら、労働者の育成のことが語られています。もし私が剣道を教える道へ進めば、まさにこの教育論が実現できる。学校教育で全ての力をボトムアップさせて、こぼれていく子がいるBBSで教員、剣道を通してエリートを作る、自分の中でその3つができあがっているんです」。西本さんが伝道師となっている「Love & passion」は、留まることを知らず、今後も多くの子どもたちの心へ届けられていきそうです。



活躍する 全国の支部員

全国各地に設立されている、追大校友会の支部。それぞれで楽しく交流を深め、メンバーを広げる活動をしています。LinkA紙面でも多方面で活躍されている卒業生をご紹介しますが、各支部の中にもそれぞれ活躍している卒業生がいます。そんな「うちの支部で活躍している支部員」を、現在のご活動・活躍の様子とともに、ご紹介いたします。



追手門学院小学校の時に児童劇団に入団して以来、多くの舞台を経験させていただきました。これまでに片岡愛之助さん主演「十月花形歌舞伎GOEMON石川五右衛門」や「システィーナ歌舞伎」にも参加、NHK 連続ドラマ「あさが来た」や関西の番組「マルコポロリ」「よ〜いドン!」の再現ドラマ、映画「笑顔の向こうに」(第16回モナコ国際映画祭最優秀作品賞受賞)などにも出演させていただきました。現在東京を中心に活動中ですが、校友会東京支部の活動に楽しく参加させていただいております。同世代の方が多くので、東京や関東にお住まいの方と一緒に東京支部を盛り上げていきましょう。

東京支部 演田英里(本名 演田英里子)さん
2015年卒業(46期生) 心理学部 心理学科



子どもの頃魅せられたバンジョーを中学生から買い、大学ではアメリカ民謡研究部に所属。歌う楽しさも知り、ライブやコンサート、TV出演をしてきました。子育てが一段落して音楽活動を再開し、2枚のCDも発表。主婦業の傍ら、バンジョーを弾きながら歌うライブを沢山行ってきました。大学から上海万博・日本産業館JALステージに出演させていただきました。自宅医院の待合室で無料院内ライブも行ったりしています。今も、部活や同期の友人、校友会を通じて大学と繋がっていることに、母校への感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、健康で一期一会楽しい音楽活動を長く続けていきたいと思っています。

滋賀支部 北村伊住(旧姓 岸上いづみ)さん
1977年卒業(8期生) 文学部 英米学科
<http://www.izumi-sweetgrass.com/>



カフェを営んでいた時、イベントとして師匠(主人)とともに吟じたことをキッカケに還暦過ぎから詩吟を始めました。詩吟の魅力は、言葉や表現の美しさ、そして日本人の心を伝えることにあります。また、声を大きく出すことによって、健康維持や姿勢を直すことなどの良い点も多々あります。令和にちなみ、万葉集より和歌や俳諧歌なども歌います。今後、学校・保育園などいろんなところで詩吟の魅力を伝えていきたいです。

兵庫支部 中野裕子(旧姓 平野裕子)さん
1977年卒業(8期生) 文学部 社会学科
日本詩吟学院 岳風会 所属



現在、奈良市立春日中学校長として勤務しています。「学ぶ」ということ、また、「働く」ということは、決して自分一人の幸せを追い求めるだけでなく、世の中の全ての人の幸福を追求し、実現するためであり、キーワードは「社会貢献」と「自己実現」であると考えています。今、学校で学ぶことは、自分たちの「生きる力」となり、将来の人生につながるものだと思います。そして、多くの人と「生き合い」みんなの幸せを実現し、明るい未来を共に創ってほしいというようなことを、機会あるごとに中学生に語っています。

奈良支部 坂本静泰さん
1985年卒業(16期生) 経済学部 経営学科



現在の私は和歌山市内の食品加工機器メーカーの海外業務部に勤務しております。社会人になりたての頃は、まだ戦後の傷跡の残るベトナムへの出張など慣れない環境で戸惑うことの連続でした。今の海外業務でも新たな課題に取り組む日々の繰り返しですが、最近では頻りに雇うようになった追手門出身の皆様もそれぞれの社会で頑張っておられるとの便りが、私の励みになっております。学友とは金銭で手に入らない人生の貴重な財産とも言えます。和歌山支部ができたおかげで、再び追大出身の皆様と交流できることは誠に嬉しく、感謝の念に堪えません。今後とも大切な学友の絆を継続できますよう宜しくお願い申し上げます。

和歌山支部 山崎孝さん
1980年卒業(11期生) 文学部 英米語文学科



四国支部 21期卒業の川勝寛子です。追手門学院大学を卒業後、大学院へ進学し、卒業後は臨床心理士として単科精神病院で面接や検査をする日々を送っています。今年、公認心理師の資格も取得することができました。就職当初からソングライターに縁があり研究テーマにするともに、将来後進の役に立つことを願って、地道にデータを集めています。勉強しなければならぬことも多く、新しい知見と大学で学んだ基礎とが繋がって、心理学科の4年間と大学院での生活で学んだことが今に生きていることを実感しています。

四国支部 川勝寛子さん
1990年卒業(21期生) 心理学部 心理学科

交遊誌・ホームページ掲載希望者募集中 (掲載対象) 国内外を問わず、追大卒業生で、校友会会員であること (ジャンル) ○グルメ(飲食・お菓子)○旅行(ホテル・旅館・旅行代理店)○住まい(不動産・住宅・相談)○医療・福祉・介護・保険○学校・予備校・塾・カルチャースクール○美容院・エステサロン○卸・製造など (掲載料) 無料 (ご注意) 内容などにより校友会の承認が得られない場合、掲載いたしかねる場合があります。予めご了承ください。また、届け出の連絡が取れない場合(例えば電話が通じないなど)、閉店などが認められた場合には掲載を中止させていただきます。(掲載申し込み) 校友会ホームページからの申し込みに限りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

登録募集中!! 「誰どこ何してるシステム」

<https://otemon.org./daredoko/>

「誰どこ何してるシステム」とは、追手門学院大学校友会が運営する会社やお店を幅広くご紹介しているサイトです。ご近所の校友のお店や会社なども見つけていただけます。追手門学院大学の校友だけへの特典が付くという嬉しい情報もあります。皆様、どしどしご登録をお願いします。



編集後記

LinkA創刊4号の発刊にあたり、今回も多忙なスケジュールの中、取材にご協力いただきました5名の方々に心よりの感謝を申し上げます。取材に立ち合わせていただき、大学時代に経験されたことを糧に、「あきらめない」心と情熱を持って歩み続け、今を輝かしく生きておられる姿を感じ取ることができました。誌面に紹介させてもらった方々と多くの卒業生とが交流を促して繋がりを、お互いの真実を高め、「追手門学院大学」ブランドの向上に努めていければと思います。11月21日には活躍する卒業生交流の場として「第3回LinkAのついで」を西上通天閣観光社長の協力のもと、通天閣にて開催します。詳細は会報・HPにて掲載しています。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。(広報委員会 官浪伸次)



発行・編集
追手門学院大学校友会
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20 追手門学院大阪城スクエア
TEL:06-6943-8400 FAX:06-6943-8401
URL:https://otemon.org E-mail:koyuka@otemon.ac.jp
2019年9月1日 発行